

「2017年とエビデンス」

皆様

本年も大変お世話になりました。2017年は、エビデンスに基づく教育研究会にとって、激動の一年となりました。これまでになく、エビデンスに基づく〇〇に注目が集まり、各種方面で促進されてきました。来年は、益々、エビデンスベースド〇〇が発展していくことが予想されます。

ここで、この1年、私が把握する限りで、Evidence Based Practice and Policyに関連する出来事を「2017年とエビデンス」として、まとめました。

来年以降、注目する視点としてご参考にして頂ければ幸いです。

岐阜県養老町立養北小学校・ロンドン大学（IOE）・エビデンスに基づく教育研究会
森 俊郎

□日本政府官庁の動き（教育分野以外）

- ・2016年、内閣府（内閣官房行政改革推進本部）「確かな根拠に基づく政策立案（EBPM）の定着についての検討」により、2017年「骨太の方針（経済財政運営と改革の基本方針2017）」に「EBPMの推進」という言葉が初登場。
- ・全省庁に「EBPM推進統括官（仮称）」が置かれるなどEBPM推進のための組織体制も整備されはじめる。
- ・官民データ活用推進基本法（平成28年法律103号）の成立。
- ・2017年10月、厚生労働省の「科学的裏付けに基づく介護に係る検討会」初会合。

□民間・学会・メディアなどの動き

- ・2017年12月、三菱UFJリサーチコンサルティングにおいて、【行政の最前線でエビデンスの活用を進めるには】と題して、イギリスのエビデンス仲介機関 Early Intervention Foundation を招き、セミナーが開催。
- ・2017年12月、日本虐待防止学会にて、「子ども虐待とエビデンスの架け橋～エビデンスの構築から利用まで～」と題して、シンポジウム実施。
- ・日本経済新聞、朝日新聞、中日新聞などにエビデンスに関する記事掲載。

□日本の教育分野の動き

- ・2017年3月、文部科学省は①学級規模等の影響・効果、②加配教員・専門スタッフ配置の効果分析、③高い成果を上げている地域。学校の取組・教育環境の分析、④教員の勤務実態の実証分析に着手。全国学力・学習状況調査の研究への活用に関して、個票データを大学等の研究者に貸与できるようにするためのガイドラインを定める。
- ・2017年1月、文部科学省において高1から就業までの約10年間の追跡調査が開始。厚生労働省が行っていた「21世紀出生児縦断調査(平成13年出生児)」のコホート研究。
- ・2016年5月、教育再生実行会議第9次提言において、教育投資に関連して、国における施策の効果の検証・分析体制の強化の必要が述べられる。
- ・G7倉敷教育大臣会合「倉敷宣言」の「客観的根拠に基づく教育政策の推進」合意に基づき、中央教育審議会の教育振興基本計画部会において、教育政策への客観的な根拠の活用の在り方等について検討が行われる。(現在第19回実施)
- ・2017年12月、教育振興基本計画部会第18回において、文部科学省内に政策調査課を新たに設置することが打ち出される。

- ・2017年6月、文部科学省委託調査「諸外国における客観的根拠に基づく教育政策の推進に関する状況調査」が公開。
- ・2017年9月、文部科学省委託「諸外国における客観的根拠に基づく教育政策の推進に関する状況調査」要約英訳版公開
- ・原田信之・ジョン・ハッティ（2016）「学習に何が最も効果的か—メタ分析による学習の可視化」

□Evidence Based Education 研究会の動き

- ・2017年8月、Evidence Based Practice and Policy center（仮称）を組織し始め、第1回のセミナーを実施。David Gough氏来日講演。
- ・2017年12月、日本評価学会共通論題4「教育のエビデンスとアカウンタビリティ」公開セッションの実施
- ・惣脇宏（2017）「教育経営とエビデンス」（高見茂・服部憲児編著『教職教養講座 第14巻 教育経営』協同出版，pp.117-136）
- ・エビデンス - ガバナンス論の構築（試論）—教育現場にとって研究は無益なのか—桐村豪文 - 神戸常盤大学紀要，2017

□国際的な動き

- ・2017年9月南アフリカケープタウンにて、Global Evidence サミットが実施される。
- ・2018年10月、オーストラリアメルボルンにて、Global Evidence サミット実施予定。
- ・2017年12月、ニュージーランドBESより、「Walking the talk’ matters in the use of evidence for transformative education」が公開される。
- ・南アフリカにおいて、Evidence informed decision-making(EIDM)のワークショップなど各種ワークショップが開催。
- ・2018年9月The EVIDENCE 2018 conference 開催予定。
- ・2017年2月 アメリカWhat Works Clearinghouseが「Evidence for ESSA」ウェブサイト公開。
- ・2017年イギリス、Evidence and Policy年4回発刊。
- ・2017年2月、Nestaより、「エビデンス活用のための10の資料」公開。
- ・2018年、ガーナエビデンスサミット開催予定。
- ・2018年キャンベル共同計画89の教育分野のSRを公開。
- ・2017年David Goughら「Introduction-Systematic-Reviews」発刊。

参考文献

- ・EBPMのニーズに対応する経済統計の諸課題に関する研究会（内閣官房/政策課題のHP）
https://www.cas.go.jp/jp/seisaku/ebpm_kenkyukai/index.html
- ・EBPM推進体制
http://www.kantei.go.jp/jp/singi/toukeikaikaku/core_kanji/dai3/siryoul.pdf
- ・RIETI EBPMシンポジウム
<https://www.rieti.go.jp/jp/events/17121901/info.html>
- ・文部科学省教育振興基本計画部会第18回資料
http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo14/shiryo/1398446.htm
- ・日本虐待防止学会 <http://kodomo2017.jp/program.html#s01>
- ・日本評価学会 http://evaluation.jp.org/files/JES18th_program1111.pdf
- ・メルボルンGES会議2018
<https://www.geis2018.org/>

- BES 「Walking the talk’ matters in the use of evidence for transformative education」
<http://www.educationcounts.govt.nz/topics/BES/Whats-New>
- 日本経済新聞
記事 1
<https://www.nikkei.com/article/DGXKZ019910930R10C17A8TCR000/>
記事 2
<https://www.nikkei.com/paper/article/?b=20171016&ng=DGKKZ02224020T11C17A0KE8000>
- 朝日新聞
記事 1
<https://www.asahi.com/articles/SDI201708242213.html>
- 中日新聞
www.chunichi.co.jp/article/feature/kyouiku/list/CK2016091902000004.html
- 厚生労働省
<https://www.jmedj.co.jp/journal/paper/detail.php?id=8371>
- Evidence For Africa
<http://www.africaevidencenetwork.org/>
- 文部科学省委託 「諸外国における客観的根拠に基づく教育政策の推進に関する状況調査」 要約
英訳版公開
http://www.murc.jp/thinktank/rc/politics/politics_detail/seiken_170920
- Evidence and Policy
<http://www.ingentaconnect.com/contentone/tpp/ep/2017/00000013/00000003/art00007>
- エビデンス活用のための 10 の資料公開
<https://www.nesta.org.uk/blog/top-10-resources-use-evidence>
- Evidence for ESSA
<http://www.evidenceforessa.org>
- Ghana Education Evidence Summit 2018
<https://www.poverty-action.org/event/ghana-education-evidence-summit-2018>
- キャンベル共同計画
<https://campbellcollaboration.org/>
- Introduction-Systematic-Reviews-David-Gough
<https://www.amazon.es/Introduction-Systematic-Reviews-David-Gough/dp/1473929431>

注意

敬称略、順不同です。掲載していない情報も多数あります。
短時間でまとめたものですので、あくまでご参考程度にご活用ください。